

宇部市文化振興まちづくり審議会 概要

日 時：令和 5 年(2023 年)6 月 29 日(木) 13:30～14:55

場 所：市役所 3 階会議室(防災情報センター)

出席者：委員 6 人(欠席 4 人)

事務局：観光スポーツ文化部：富田部長、青山次長

文化振興課：中祖課長、伊藤副課長、竹内副課長、上田文化振興係長

学びの森くすのき・地域文化交流課：石川副課長

1 委員及び事務局紹介

2 議 事

(1)「文化振興ビジョン(第三次)」の進捗状況について

文化振興ビジョン(第三次)の進捗状況の令和 4 年度の実績について、事務局より説明。

(会長) 文化振興ビジョン(第三次)の進捗状況で、令和 4 年度の実績について、皆様からのご質問、ご意見をいただきたい。

(会長) 宇部市デジタルミュージアムとはどのようなものか。

(事務局) 全国のデジタルミュージアムを集めたサイトの中に宇部市のページがあり、写真集や文化財一覧、遺跡、絵巻の世界など 6 つのコンテンツを掲載している。

(委員) どうやったら見ることができるか。

(事務局) インターネットで「宇部市デジタルミュージアム」と検索していただければサイトが表示される。

(委員) 周知はどのようにされているか。

- (事務局) チラシを配布するとともに、出前講座「デジタルミュージアムを楽しもう」を実施した。また、学びの森くすのきや文化会館、ふれあいセンターでデジタルミュージアムに掲載している写真を展示し、デジタルミュージアムについても周知した。
- (会長) なかなかすぐには広がらないので、出前講座をしているのは良いことだと思う。
- (委員) デジタルミュージアムは、図書館でも見られるか。
- (事務局) 図書館のパソコンのインターネット環境を使って見ていただくことはできる。
- (委員) あしながおじさんという言葉は、若い人がご存知だろうか。
- (委員) 社会包摂型という言葉として、あしながおじさんという言葉が合うと考えて使ってきた。毎回言葉の説明はしていないが、イメージ画像としてあしながおじさんのイメージを出すようにしていた。
- (委員) 社会包摂事業について、経済的に不安を抱える世帯の子どもたちへのご案内というのはとてもデリケートなこと。社会包摂事業自体は大事だと思うが、展開の仕方、周知方法などは考えていかないといけないと思う。
- (委員) 「子ども課外クラブ」について、対象を限定せず、全小学生に案内するなど、デリケートな問題として考えながら進めている。
- (会長) 目標指標の一番上の内容について、1年に1回以上文化を鑑賞したことがある人の割合というところで、文化を鑑賞するということをどのように定義して、どういった人を対象にアンケー

トをしたのか確認したい。

(事務局) ビジョンの 8 ページに調査概要を掲載している。
実施時期は令和 3 年 5 月～6 月。対象者は 18 歳以上の宇部市民から無作為抽出の 3,000 人。1,025 人の回答があり、回答率 34.2%となっている。

「1 回以上の文化鑑賞」にどのようなものが含まれるのかということについては、芸術作品を見たり聞いたりして理解して味わうこと、と定義している。劇場・音楽堂・美術館での鑑賞だけにとどまらず、市内の野外彫刻、店先などの絵画、自宅のテレビで映画を見る、DVD を見ることなど、すべて含めている。

(会長) 令和 2 年度が 49.8%という数値。アンケート時にテレビでの映画鑑賞も含まれるという説明が必要ではないか。文化活動を行ったことがある、という設問については、やはり参加するということは受動的なことではないから、少し構えてしまってこういう数値になるかと思う。

多くの人が文化に親しむことが、この文化振興ビジョンの一つの目的だと思っている。数字で出してしまうと数字が独り歩きしてしまうので説明をしないとイケない。

また、人口が減っているのに数値目標の人数を上げていくのは大変だと思うので、ここは少し考えていったら良いのではないか。コロナの 3 年間、経験したことの無い状況だったから、文化活動にも大きく影響したと思う。これから数字を出していくのに、コロナが明けた令和 4 年度または 5 年度を起点にしても良い。これまでと違う方法でアンケートができると良いのではないか。

(委員) 小学 4 年生を対象に UBE ビエンナーレ鑑賞授業を実施したとあった。自分は小学生の時にクラブ活動で百人一首の競技カルタを体験したことがきっかけになって高校の部活でかるた部に入った。小学校の授業で鑑賞を経験して、子どもたちが文化に

触れあうことができたなら良いと思った。

(委員) 取組で、「アートを紹介して、観察力、思考力、他者を理解する心を育み、主体的で豊かなコミュニケーションを生む彫刻とアート教育の充実を図ります」という部分が、大変良いことだと思う。最近教育の世界でコンピテンシーという言葉が流行っている。具体的に何をしたか、だけでなく、それをやることによって何が育まれたのか、獲得できたのかということが重視されている。人間的な資質能力が向上していく、人間として底流に流れている主体性、コミュニケーション能力などが育まれる取組をした方が良い。

文化振興ビジョン(第三次)の進捗状況の令和5年度の計画について、事務局より説明。

(会長) 文化振興ビジョン(第三次)の進捗状況で、令和5年度の計画について、皆様からのご質問、ご意見をいただきたい。

(委員) 市史の編さんは、3冊を10年かけて作るということか。

(事務局) 基本方針では、10年かけて3冊を作るということになったので、その予定で進めることとなる。

(委員) 個人的にはちょっと長すぎるのではないかと思う。

(委員) 自分としては、冊子やダイジェスト版でも良いからもう少し早く出ないかと思ってしまう。宇部の歴史のダイジェスト版のようなものはあるのだろうか。

(事務局) 単発のものであれば100周年の記念誌や、デジタルアーカイブ掲載の写真なども資料になると思う。どこかで総合的なものを作らないといけない。

(委員) 地域の方々、郷土史研究会の方など、個人個人が、自分の調べたいことを掘り進めて調べておられる。個人が調べたことを集めた上で、その情報の正確さも検証が必要だと思うので、10年ぐらいかかるかなという印象ではあるが、そういう方々は高齢であることも多いので、情報の収集・確認作業は時間の制限を意識しないといけないと感じた。一人ひとりの持っている情報を集めて、これを見たら宇部市のことがわかるという、すごいものができるのではないかと楽しみにしている。

(委員) 今回の市史の編さんは、資料を3冊作成予定ということか。

(事務局) 宇部市ができてからの通史編が1冊、資料編が1冊、それから楠町の考古から宇部市合併までの通史編1冊を作ろうということになっている。

(委員) 主な取組に、昭和61年から以降の本市の歴史と書いてあるが、それまでの部分はある程度できているのではないか。

(事務局) 平成までの歴史は、通史と資料編でできていた。当初はその後の期間について作成する計画だったが、それでは分量的にも内容的にも不十分という意見が出て、3冊を作るということになり、作成期間も10年という方針が変わった。

(委員) 渡辺翁記念会館・文化会館の駐車場の件で、2023年度の計画として、イベントなどの実施の可能性について交通事業者との協議とある。交通事業者との協議の場があれば、文化創造財団も含めて検討させてもらえないかと思っている。

(会長) 文化会館の修理期間はいつからだったか。

(事務局) 令和6年1月から8年3月を予定している。

- (会長) 代替措置は何か取られたのか。
- (事務局) 代替施設の一覧表を作成し案内している。
- (委員) 取組の中で、いろいろ費用が掛かるように思うが、ふるさと納税、クラウドファンディングなど検討されているか。
- (事務局) 彫刻についてはクラウドファンディングを実施している。あまり順調に集まっているとは言えないが、PR しながら進めていきたい。
- (委員) 子ども文化夢教室について、日舞や俳句など、これは毎年実施しているのか。
- (事務局) 市内に小学校が 24 校あり、昨年度は 12 校で実施した。今年度も 12 校募って実施予定としている。
- (会長) 伝統文化の継承について、自主的に興味を持つというのはなかなかできない。学校教育の中でこういう機会があると印象に残る。大人になったときに思い出すことが大事だと思っており、ぜひ続けて行ってほしい。
- (委員) ビエンナーレの鑑賞について、市内の全校で 4 年生を対象に実施できるのはとても良い。宇部市で育った誇りを子どもたちが持つためにも、宇部市は彫刻のまちだということを全員が共有するためにも、この取組はこれからも続けて行ってほしい。
- (事務局) 宇部市で育った子どもたちにとっては、必ず 1 回は彫刻を見て、触れてという形で彫刻教育を実施している。今年度も実施予定であり、今後も続けていければと考えている。
- (委員) ときわ公園の現地で説明してくださる方がとても素敵です。

(事務局) 宇部市ふるさとコンパニオンの会の方々に協力いただいて、一緒に回りながら一つ一つの彫刻を丁寧に解説していただいている。今後とも協力して進めていければと思っている。

(会長) とても良い取組だと思う。学校教育の中で機会がないと。後からわかる、卒業してからわかるようなことだが、彫刻をアピールして、そういうところで育ったという思いがあれば世界に飛び出していっても何か残ると思う。

(委員) 今の話の中で私も思ったが、小学校の時に外部から来られて劇やダンスの鑑賞があった。何年かたって、高校の友達と、違う小学校の人でも思い出話が共有でき盛り上がったことがある。それと、昨日、岩鼻公園に行った時、赤いバナナの彫刻に友人は驚いてすごいと写真を撮っていた。身近に彫刻があったら、市外の人も関心を向けることがあると感じた。

(2) 宇部市文化創造財団の公益法人化について (報告)

宇部市文化創造財団の公益法人化について、事務局より説明。

(会長) 申請にあたっては財団も大変なご努力をされたと思う。
何か質問がありますか。

(発言なし)

それでは事務局にお返しします。